

2019「植村直己冒険賞」受賞者



いわもと みつひろ
岩本 光弘

アメリカ サンディエゴ在住

提供：ダグラス スミス

世界初！ブラインドセーリングによる 太平洋無寄港横断

概要

2019年2月25日、太平洋横断に向けてアメリカ・サンディエゴを出港。航海は思っていた以上に苦戦。日本近海に入ってから、前線や低気圧に10回以上遭遇し、風速が軽く40Kt（ノット）を超えることもあった。台風並みの低気圧を避けるために100マイル以上も逆戻りしたこともあり、精神的に追い込まれる日々が続いた。4月20日、福島県小名浜港いわきサンマリーナに到着。60日を想定していた航海日数は、54日3時間4分、航海距離は13,000Kmとなった。晴眼者（目の見える人）が風の向きなど状況を伝えながら、全盲の人がヨットの舵と帆を操る「ブラインドセーリング」での無寄港太平洋横断は世界初の快挙。

工夫・独創性

初めは見えないことに気づかないくらいの軽度な先天性弱視であったが、高校生の時に全盲となる。旧筑波大付属盲学校の鍼灸の教員になり、英会話教室で知り合ったアメリカ人女性と結婚。セーリング経験があった妻の誘いで35歳の時にヨットを始める。

設備の位置を覚えると、ヨットの上で動くことができ、頬で風向きを感じ、舵も取れた。2006年、アメリカ・サンディエゴに移住。やがて「太平洋を横断したい」との思いが芽生える。腕前も世界大会に出場できるまでに上達していた。2011年、太平洋横断を支援するという雑誌の企画に応募。健常者とペアを組み、2013年6月に福島県を出港したが、6日目にクジラに衝突してヨットが浸水。船体放棄後、膨張式救命いかだに乗り込み、10時間漂流後救助された。

「僕さえ夢を持たなければ・・・」。申し訳なさと恐怖心で海に近づけなくなったが、「ネバーギブアップ」と言い続けてきたことが嘘になる、と再び海へ。知人の紹介で知り合ったアメリカ人男性ダグラス・スミス氏からペアの申し出があり、再挑戦する決心をした。ダグラス氏はアクティブなライフスタイルを好んだ生活をしているが、ヨットは完全な初心者のため岩本氏を支えるために訓練を重ねた。

東日本大震災の時に、自分にできることは何かを考え、太平洋横断のゴールを福島に決めた。全盲セーラーとヨット初心者がアメリカ・サンディエゴから福島県への航海に挑んだ。

冒険経歴

- 1966年 熊本県天草市生まれ。
- 1982年 生まれつき弱視で、16歳で残存視力を失い始め、全盲になる。
- 1989年 「広い世界を見たい」と奨学金を得てSan Francisco State Universityに2年間留学（～1991年）。
- 1992年 筑波大学付属盲学校で教員として以降14年勤める（～2006年）。
- 2002年 自宅近所の千葉県稲毛マリーナのレンタルヨットの存在を知り、中高時代にヨットの経験がある妻に誘われて初セーリングをする。
- 2006年 アメリカ・カリフォルニア州・サンディエゴに移住する。
- 2013年 ニュースキャスターの辛坊治郎氏と太平洋横断に挑戦も、浸水により行動を断念。
- 2016年 トライアスロン ハーフアイアンマンを完走（サンディエゴ）。
- 2019年 世界初「ブラインドセーリング」での無寄港太平洋横断に成功。

その他

【資格】 あん摩マッサージ指圧師

はり師

きゅう師

鍼灸教員免許

アマチュア無線技士1級免許

【受賞歴】 2006年 世界視覚障害セーリング大会 日本代表

2015年 ニューポートエンセナダレーストランスパッククラス 2位入賞

【書籍】 『見えないからこそ見えた光』（ユサブル）

※売り上げの一部は、国際視覚障害者援護協会に寄付する

【HP】 <http://hiroiwamoto.com>



世界初ブラインドセーリングによる太平洋無寄港横断の軌跡

提供：(株)舵社

2019 冒険情報数一覧表

	山	縦横断	海	極地	空	川	その他	計
個人活動	67	85	6	4	0	1	3	166
団体活動	16	17	3	1	0	0	2	39
合計	83	102	9	5	0	1	5	205